

## 「とやまの竹資源利用・整備促進検討会」の検討状況

## 1 設置の背景

竹林は、かつて山村住民とのかかわりの中で里山と一体的に維持管理されてきたが、生活様式の変化等により利用されなくなるなど、放置された状態となっている。また、竹林は周辺への拡大速度が速く、スギ人工林等へも侵入し他の樹種の生育を阻害している。このため、里山林の水土保持や生物多様性保全などの公益的機能や木材生産機能の低下が顕在化した。一方では、竹材やタケノコ生産としての利用や景観の形成としての役割も重要である。

## 2 検討事項

## (1) 竹林等の現況

- ・竹林面積は、1, 124haと32年間で2倍に増加。
- ・竹資源の利用は、代替品や安価な輸入品の増加で大幅に減少。
- ・竹林所有者の半数は竹林の手入れを何もしていない。

## (2) 竹林整備の基本的方向

- ①竹の旺盛な成長力を活かし、循環資源として積極的な利用と管理の推進
- ②景観、防災上重要な箇所の適正な管理、または林種転換の推進
- ③県民参加による竹林整備の積極的な推進

## (3) 竹林の整備目標 (H19～H28年度)

- ①生産竹林 330ha (30%) 竹資源を生産する竹林として放置竹林等を再生。  
または、現在管理されている竹林を引続き維持。
- ②転換林 230ha (20%) 竹林を皆伐し、広葉樹等への林種転換を図る。
- ③保全竹林 564ha (50%) 公共事業等やボランティア等の活動により竹林を保全。

## (4) 具体的な方策

- ①荒れ放題の竹林の択伐や竹林を他樹種へ転換するなど竹林の管理
- ②竹資源の生産者と利用者を結ぶネットワークの形成やキノコ培地などの新用途の開発。
- ③竹林の管理・利用が県民に広がるよう「竹製品アイデアコンテスト」などの開催

(参考)



竹が侵入したスギ林

放置された竹林



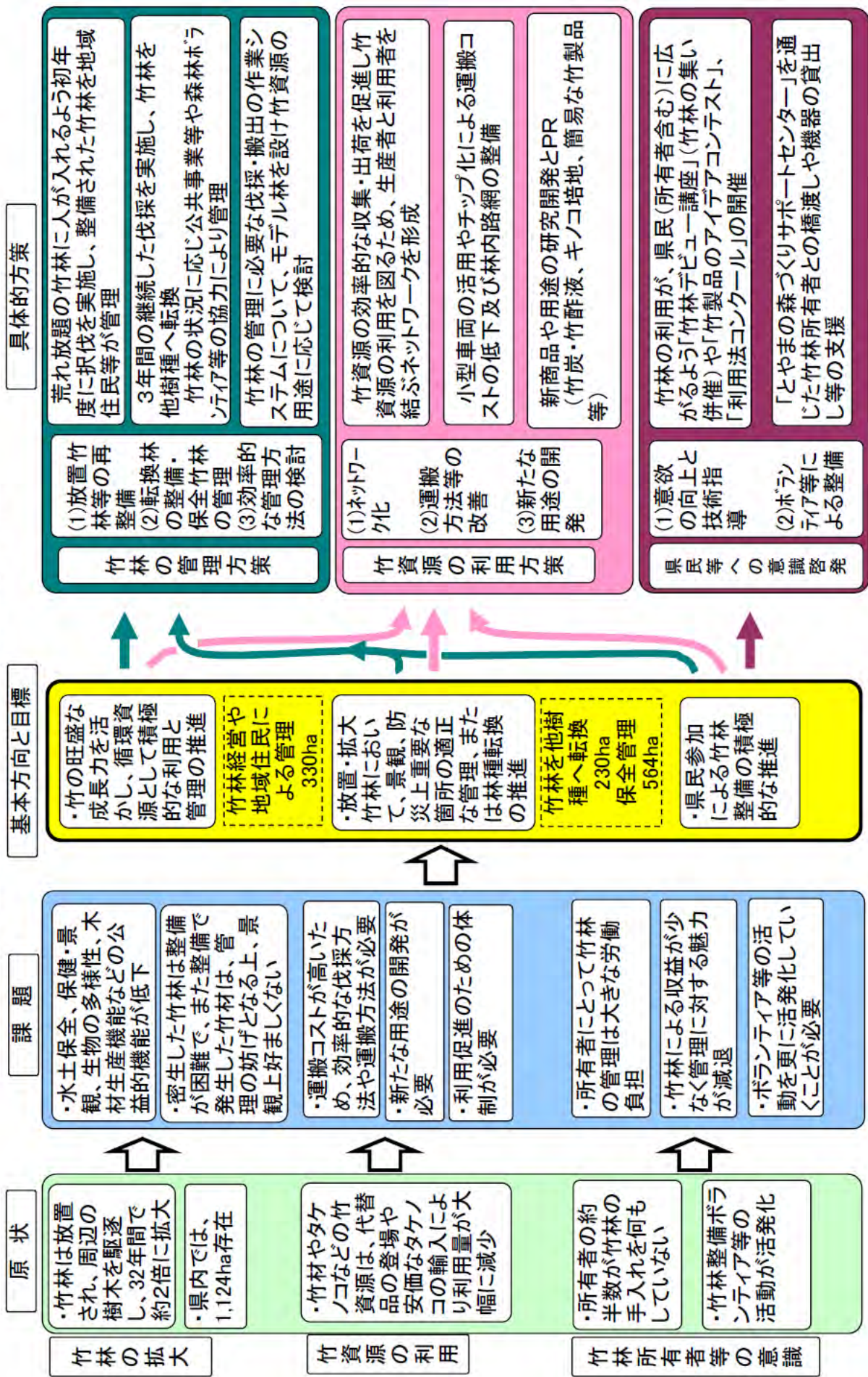
竹材のチップによる処理

手入れされた放置竹林

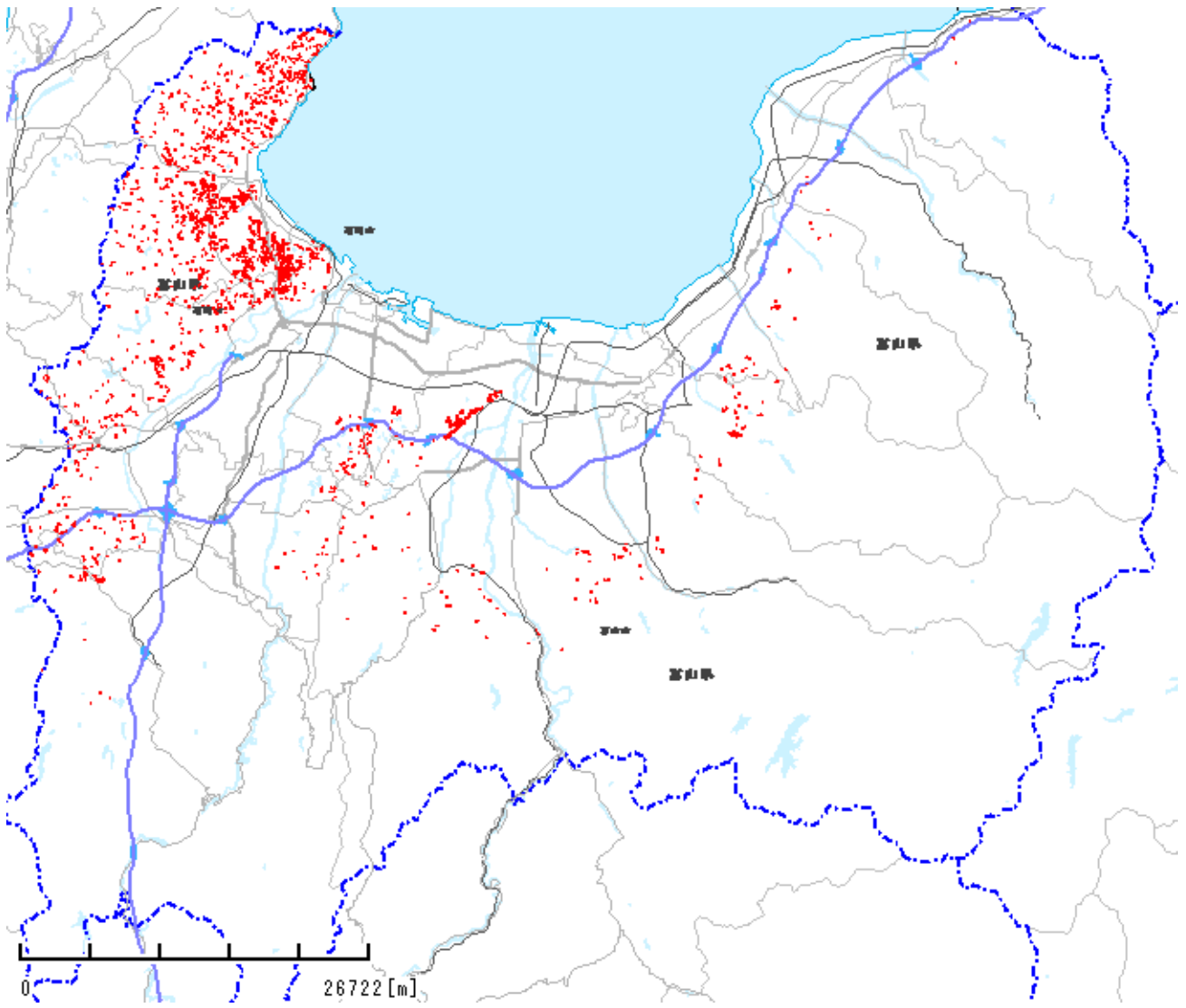
竹ドームとしての利用例



竹林の整備と竹資源利用の促進への検討方策の概要



# 衛星データを用いた竹林の分布図



赤い点が平成 20 年の竹林が存在する箇所